

年次報告書

ホームページ掲載版

2018 年度活動報告

2019 年度活動計画



2019 年 4 月

特定非営利活動法人
サヘルの森

〈目次〉

はじめに	1
2018年度現地活動報告	2
2019年度現地活動計画（2019年1月～12月）	9
国内活動－2018年度活動報告・2019年度活動計画	11
運営委員・監事名簿（2019～2020年）	16

〈表紙の写真〉

庭で日陰を提供するウィリフェナ村のエタージュ
(*Terminalia mantaly*)

(10年以上前に村人が配布苗を植樹)

〈裏表紙の写真〉

バオバブとユーカリの苗に微笑む女性

はじめに

「サヘル」はアラビア語で「岸边」を意味します。アフリカ・サハラ砂漠を南下するアラブの商人たちがたどり着いた人里を「砂漠の岸边=サヘル」と呼んだことから、この南縁一帯をサヘル地域と呼ぶようになりました。人が生活できる限界の土地とも言えるこの地域では砂漠化の進行という問題が続いています。

目的

当会は、西アフリカの内陸にあるマリ共和国で、サヘル地域の砂漠化を防止し、そこに住む人々が安定した生活を築けるように協力することを目的として、1987年に発足しました。サヘルに生きる人々の暮らしが根付けば砂漠が芽吹くと考えています。

経緯

当初は干ばつで疲弊した遊牧を中心とする人々の要請により、降水量が200mm以下のトンブクトウ州のティンナイシャ村に住み込んで、苗木作り・植林等を行ないました。その後民族間の武力衝突のために、南部モプチ周辺に移動し、村に住み込んで活動しました。一時治安が良くなり、トンブクトウ州での活動を再開しましたが、再び治安の悪化等で、バマコ周辺やファナ地域での活動となり、10年余が経過しました。

地域が変わると、自然条件、民族も変わります。ファナ地域は天水農業地帯ですが、首都バマコから100km圏にあり、大量の薪炭や資材が村から都市に供給されています。そのため、薪炭ばかりでなく、食用、薬用、家畜飼料、生活資材など多様な利用がなされてきた村周辺の里山が、生長量以上の伐採利用で衰退して、森林・自然の多面的な利用が困難になってきました。また、地方分権化での土地の分譲が進み、緑の減少に拍車をかけています。

村人の要請

村と村の間の農地に適さない場所には里山が広がっていましたが、この場所が過伐採で多くが低木林化してしまっています。残った樹林にも隣接地の住民が入ってきて伐採を進めるので、トラブルになっています。ここを使っているという目印のために苗木を植えたいという要請がありました（アルファーブグー村）。毎日のマキをとる場所が遠くなっているという村の女性の声もあります。

村人の主食は、ソルガム（タカキビ、コウリヤン）やミレット（トウジンビエ）、トウモロコシなどですが、それとともに食べるソースはバオバブの葉が不可欠です。そのため、女性からは常にバオバブ苗木の要望があります。果樹も生育すれば食用になることが認識されてきて、苗木の要請があります。男性からは資材としてのユーカリ苗木の要望があります。ユーカリは乾燥に強く、苗木の生育が早くて利用の期待が大きく、また伐採した根株からの萌芽もあり、再生産につながります。

こうした背景の中で、基本的な姿勢として、地域に学びながら、村人ができる方法・植える工夫などを考え、里山回復のための緑化などに取り組んできました。

ここに2018年度の活動を取りまとめて報告いたします。

2018 年度現地活動報告

2018 年のマリは、7、8 月に大統領選挙が行われ、治安の悪化が心配されましたが、大きな混乱はなく、現職のケイタ大統領の再選が決まりました。マリ北部から中部にかけては依然として軍や治安機関を狙った襲撃事件が後を絶たず、中部では牧畜民と農耕民の衝突がしばしば聞こえるようになっていています。マリ国内情勢の安定しない状況は続いています。こうした事件を回避できるように細心の注意を払い、活動を進めています。

また、私たちの活動するマリ南部の里山は、増え続ける都市住民の需要に応える形で、今まで以上に樹木の伐採が進んでいます。最近では幹線道路沿いで薪炭を積んでおけば、通行する車が買って運んでいくことが分かり、今まで販売していなかった村でも薪炭の山が見られるようになりました。また、樹木の減少からか、材としては弱いため使われることのなかった在来種までもが板材確保のために伐られたり、炭材としてシアバターノキの太い枝が伐られたりと、これまで伐られることのなかった木にまで手を付け始めています。そのため、住民が自身で使うための木を育てていくための手助けとして、苗木配布や、里山再生の実践活動をしていくことがますます重要になっていると感じています。

2018 年度のマリでの現地活動も、比較的安全であるマリ南部の活動地（ファナ、バマコ北部、バマコ南部）に日本人を派遣して行いました。日本人の派遣は計 2 回（5～7 月、7～10 月）行い、日本人不在の期間はマリ人スタッフを現場に派遣し活動を進めました。雨期（5～9 月）を中心に苗木配布や学校林の育成、里山再生の実践、試験地の補植・草刈りなどを行い、乾期（1～5 月、10～12 月）には試験地の管理と灌水、配布苗の生育状況の確認、学校林の保護柵補修、里山再生実践者研修と実践の準備（苗畑設置・育苗）等を行いました。

計画では、「苗木配布・植林で緑づくり運動の土台を作り広げ、村人の自給と蓄積を高めるとともに、資源管理の担い手を育て、里山再生等に協力する」ことを目標とし、以下のような活動内容で進めていこうとしていました。

- ・苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる
- ・育苗技術の研修と普及で里山再生の担い手を育てる
- ・苗木生産者や研修者などで、里山再生の実践を進める
- ・見本林地（モデル林）の充実、生育した樹木の利活用を進める
- ・学校林の育成と管理を進める
- ・日本人スタッフの派遣

以下、項目別に活動を報告します。

①苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる

（1）苗木配布と植林ワークショップ

住民が自身で植え育て、そして自由に使えることができる小さな林作りを支援するために、各村々を回り苗木配布をしています。今年度も 5 月下旬～9 月中旬の雨期に 3 地域合計 81 ヲ所を回り、25,750 本苗木を配布しました（8 ページ、表 3 参照）。

2018 年は、雨の降り始めが遅く、穀物の作付けも遅くなりました。そのため、降

雨による悪路がないために村へのアクセスが良く、また村への配布時に村人たちが畑仕事に出ることなく村にいたため、例年より効率的に配布ができました。

配布苗は、バマコ事務所の苗畑で育成したものや地域に点在する地域苗畑から購入したものを使用しています。約半数がユーカリですが、バオバブやカシューナットノキと食用となるものが続きます。カシューナットノキは、加工する工場ができたとかで、買い取る話もあり、地域苗畑で苗木を生産していることも背景にあります。そのほか将来の木材生産のためのカイセドラや里山再生の実践で生垣を育成するためのアカシア・セネガルなどが主な配布樹種です。

表1 配布苗 ベスト10

順位	樹種	本数
1	ユーカリ	12,130 本
2	バオバブ	4,200 本
3	カシューナットノキ	2,740 本
4	カイセドラ	1,590 本
5	アカシア・セネガル	1,190 本
6	スンスン	1,130 本
7	ヘンナ	950 本
8	エタージュ	700 本
9	マンゴー	390 本
10	モリンガ	280 本



苗木配布 《バマコ南・ディオグー》

(2) 生育状況の確認 (フォローアップ)

苗木配布と並行して、過去に配布した苗木の生育状況を配布に訪れた村々で確認しています。バマコ北部やファナ地域では活動を始めて 10 年を迎え、村人から案内されて見る、過去に配布した木々は非常に大きくなっています。

こうした確認作業によって意欲のある村人を見つけ、里山再生活動へ繋げていければと考えています。これまでに所有者と共に菜園などへ植樹した場所については継続的に訪れ、経年変化も見ています。

苗木配布で訪れた場所は、昨年が 77 ヲ所、本年が 81 ヲ所 (村、学校、見本林や試験地を含む) です。村は広く、畑の中や村はずれに植える人もいるので、植えた苗木を探すのはなかなか困難です。一方で住居の庭や菜園に植えたものは見つけやすく、苗木が大きくなったと案内してくれる村人もいます。



屋敷内で大きく育ったニーム
《バマコ南・タガラ》

2018 年現地で確認した一部は次の通りです。

○バマコ北部地域

バマコ北部では 14 ヲ所を訪れ、道路から近い場所で生育が確認できました。



タケ 《カバブゲー》



ニーム 《カアワ》



ユーカリ 《ネザナ》

○バマコ南部地域

バマコ南部では 14 カ所を訪れ、村の住居庭や学校校庭で生育を確認しました。



エタージュ 《アアダラ》



ザクロ 《アアダラ》



ニーム 《アアダラ小学校》

○ファナ地域

ファナ地域では 53 カ所を訪れ、村の中や畑など多くの場所で生育を確認できました。この場所で見られる大きなイピルやバオバブの多くは 10 年生です。



イピル 《ダギ》



ユーカリ 《ジヤブゲー》



アカシア・セネガル 《アアジョヤン》



カシューナットノキ 《カバブゲー》



バオバブ 《ダギ》



グアバ 《マミ》



ユーカリ 《ピニコ》



カエンジュ 《ジョアチ》



バオバブ 《ムコブゲー》

②育苗技術の研修と普及で里山再生の担い手を育てる

2015年より、苗木配布の過程で見出した、木を育てることに意欲的な村人を、高い技術を持ち実践している地域苗畑主のところで研修を行って5年が経ちました。研修は、将来的に村での里山再生の取組みの牽引役となることを期待して、苗木生産・育林の技術や里山の土地活用例を学び、自身の村で里山再生に取り組んでいくためのものです。5年間で3ヵ所の地域苗畑で計9回研修を行い、9ヵ村27名の篤農家が参加しました。



A. 7ヵ村 生垣の見学《ファナ・ボリ2 苗畑》



接木の実習《ファナ・ボリ1 苗畑》

今年度は9月にファナ地域のマナコロ村人4名、チチュア村人2名、タンバブグー村人1名の3ヵ村合計7名を対象にして、コビリ1、2苗畑の2ヵ所で2回研修を行いました（別表「2018年里山再生研修者一覧」参照）。研修自体は苗木の生産技術とそれぞれ樹木の育成技術、接ぎ木技術などのほか、水環境の良いジーシラでの土地利用法などを学びました。

この研修を通じて、先駆者である苗畑主が行ってきた成果と経験を目の当たりにし、これから研修者たちが村に戻り、自身が行う取り組みへのイメージを膨らませています。そして、研修者と苗畑主が顔見知りとなり、小さな師弟関係ができて、この先研修者たちが問題にぶつかった際に助言が得られるようにしています。

③苗木生産者や研修者などで、里山再生の実践を進める

これまでに研修を受けた研修者は、それぞれが村に戻り里山の再生に向けた取り組みを始めています。それぞれが抱える里山は、自然環境や社会環境によって様々であり、それぞれが違った生産活動を進めています。まずは各自が自身で持つ里山内に苗畑を設置し、マリ人スタッフのサポートを受けながら苗木を生産し、それぞれの里山に植え付けています。

畑に自生するズィズィフィスに改良種を接いだ村人は、近くの街で買い手がつき、今シーズンは全ての実を市で販売し、現金収入を得ました。それによりロバ車とロバを買い、次は井戸を掘りたいと意欲を示しています。他にも灌木林の有用樹を残し、有用樹の植林に取り組む村人は、ウシに幹を折られる被害に遭いながらも着実に有用樹の育成に励んでいます。そのほか、少しずつではありますが、各自が育てた苗木を里山に植え、育てるといった活動が進んでいます。

今年度研修を行った研修者たちは12月以降の乾期中に苗畑を設置し、来シーズンに向けた苗木生産の準備をしています。



ズイ・イソの改良種 (右) 《ファナ・カマブグー》



ウシに幹を折られたユカ 《ファナ・カマブグー》



モリガの栽培 《ファナ・ウエラ》



苗畑の設置 《ファナ・チア》

④見本林地(モデル林)の充実、生育した樹木の利活用を進める

(1) 荒廃地植林

ファナ地域のニヤマトブグーと幹線道路の間には表土が失われた裸地や草地、灌木林混在しています。村の許可を得て、10年以上にわたり、自然に生える樹木の生育戦略にヒントを得ながら、自然森林の回復を目指す試験をしています。

アリ塚に植えたアカシア・セネガルなどは3m以上に生長し、在来種のペグーなどの有用樹なども育っています。昨年同様、バマコ事務所の苗畑にあった在来種の大苗を定植しました。また、乾期に新たな草地にアカシア・セネガルなどを定植し、草本盛土を施して生育が促進されるか試しています。

雨期の除草作業、乾期の灌水作業をマリ人スタッフが中心となって行いました。



新たな草地に植林 《ファナ・試験地》



全面除草後、草本盛土処理 《ファナ・試験地》

(2) チャンガラ実生の保護・生育促進



薪炭材として最適ともいわれるチャンガラ (*Combretum spp.*)の実生は草地に紛れているため、毎年襲う野火によって大きなストレスを受けています。このチャンガラの实生を保護・生育するため、雨期に除草し、根元に草本盛土処理をして乾期の乾燥を抑える試みをしています。

チャンガラ実生の根元に草本盛土処理《ファナ・試験地》

⑤学校林の育成と管理

今年度は、昨年植樹を行った小学校を中心にバマコ北部2校、バマコ南部2校、ファナ2校の計6校で補植や保護柵の補修などの維持管理を行いました。

新規の小学校については、村人が希望した際に苗木を提供して、一緒に植えるようにしています。今年度は希望がありませんでしたが、苗木配布の際に提供できればと考えています。



学校林の保護柵補修《ファナ・ジバ》

⑥日本人の派遣

今年度も、マリ南部へ日本人スタッフの派遣をして現地活動を行いました。参加人員は延べ2人で、滞在期間は延べ約4.5ヶ月でした。

表2 2018年度派遣スタッフ一覧

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
坂場光雄												
榎本肇												

表3 2019年の活動地域と活動内容一覧

活動地域	主な活動地(町村・学校等)	活動内容	配布本数 主な配布樹種
バマコ(首都)	バマコ事務所	苗畑：有用樹苗・稚苗育成	在来種多数
クリコロ州バマコ北部 配布：14カ所 苗畑：3カ所	ベニヤ・ドッセ、ダバブグー、テネンザナ、ンゴロンゴジ、クントウ コジャン小学校、ウァソロラ小学校	苗木配布 学校林育成	4, 370本 ユーカリ、バオバブ、カイセドラ、エタージュ、ヘンナ
クリコロ州バマコ南部 配布：14カ所 苗畑：6カ所	ディコ、セベラコロ、ファラコダラニ、ンタバコロ、バガ ンパンコ小学校	苗木配布 学校林育成	4, 100本 ユーカリ、カシューナットノキ、バオバブ、カイセドラ、スンスン
クリコロ州ファナ 配布：53カ所 苗畑：12カ所	スクバ、コクーンコロ、ピニンゴ、マミブグー、マソゴ、マジョカブグー、サマカソマブグー、ニヤマトブグー、タンバブグー、ジェバ、ウエラクラ、グェンドウ、ラジブグー、マナコロ、チチュア ニヤマトブグー モテル・デ・ムレン	苗木配布 里山再生研修と実践 荒廃地植林試験 見本林	17, 280本 ユーカリ、バオバブ、カシューナットノキ、アカシア・セネガル、スンスン
配布：81カ所 苗畑：21カ所			25, 750本

2019 年度現地活動計画（2019 年 1 月～12 月）

マリのエネルギーは大部分が薪炭であり、村では薪炭を自給するとともに、都市に供給して現金収入を得るために、村周辺の樹林が伐採され、樹木搬出が続いています。樹林は萌芽再生する部分もありますが、需要が大きく、十分に生育する前に伐採が繰り返されるので、利用される材は徐々に細くなっています。伐採される範囲も広がっているようです。

また、地方分権の推進により、地方行政は土地の使用権の売買を進め、バマコ南部やファナ地域などでは、幹線道路に近い便利な場所が杭で区画され、伐採が進み、緑が減少しています。これらの伐採材は資材や薪炭材になっていると思われます。

首都のバマコは、人口が増加し薪炭の需要が増大しており、村からマキや炭を満載してバマコに向かう自動車をよく見かけます。マキや炭が高くなって困る、マキの太さが細くなって高くなったというスタッフの声も聴きます。

このようなマリの現状の中で、住民が参加して、生活の向上と緑の再生産に取り組めるように協力していきたいと思います。

2019 年の活動方針は「苗木配布・植林で緑づくり運動の土台を広げ、村人の生活向上を図るとともに、育てた研修実践者と、里山再生等の実践に取り組む」とします。

この中で、生物多様性による生態系安定への配慮や減少していく里山の保護の可能性も探っていきます。生物多様性は、在来種の種子、在来種の苗木を選択・利用することで進めていきます。里山の保護は、村への援助の条件としてマリの行政や国際援助機関の関りで進められることがあるようです。自主的に取り組む村もあるので、そのような場所で、共有林の保護・保全の里山再生の可能性を探ります。

活動地域は、ファナ地域、バマコ北部、バマコ南部を中心に行います。

活動目標は次の 5 点です。

- ・苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる
- ・研修実践者の里山再生に協力し、里山保護の可能性を探る
- ・有用樹の育成を進める
- ・学校林の育成と管理
- ・日本人スタッフの派遣

その具体的な活動内容は次の通りです。

①苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる（継続）

苗木配布や植林協力で、村人の林づくり・果樹園づくりに協力し、栽培意欲、緑づくりの機運を広めます。多くの村人と出会うことで、意欲のある人材探しにつなげます。資材、果樹など有用な生活資源の育成で、自給を高め、資材等の蓄積を進めます。苗木配布後の生育状況を把握し、住民との交流で生育意欲を高めます。

②研修実践者の里山再生に協力し、里山保護の可能性を探る

研修実践者がそれぞれの村や周辺で実施する苗木育苗、生垣育成、樹木・果樹育成など里山再生に協力します。株分け、取り木、施肥、萌芽育苗、林内植樹など里山再生の技術的な手法を伝承します。さらに実践者が意欲ある村人に育苗・植樹などの指導ができるように協力していきます。

里山を村人とともに持続的に保護できるように協力します。合意が進んだ村では境界への植栽、それぞれの村の共有林への苗木提供、植林協力などが考えられます。

③有用樹の育成を進める

住民たちへ里山の価値を啓もうし理解してもらうために、里山再生の見本となる地域苗畑・試験地・見本林で、在来種の有用樹を育成するなど里山の質の向上を図ります。里山の生産性・収益性の向上を目指して、樹木の管理(整枝、剪定、施肥、簡易な土壌改良など)を行い、資材、果樹などの育成に取り組みます。

④学校林の育成と管理（継続）

学校は、村の重要な施設であり、緑陰づくりなどで学習環境の改善を進めます。雨期に入ると夏休みになってしまうため、時期を調整する必要があります。これまでに関わった場所の状況を把握し、維持管理に協力するとともに、新たな学校林の育成を進めます。

⑤日本人スタッフの派遣

これらの課題を実行するために、日本人スタッフを派遣します。2019年の派遣は、2名延べ4.5ヵ月を予定しております。さらに助成金の合否にもよりますが、2020年1～2月には1名1ヵ月の派遣を予定しています。

表4 2019年度のスタッフ派遣予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
スタッフA						■	■	■	■	■	■	■	■
スタッフB								■	■	■	■	■	■
スタッフC													■

活動にあたっては、治安情報に注意するとともに、事件、事故などに遭わないように、次のように注意します。

病気予防では、日本人、マリ人スタッフの健康維持に留意し、衛生保持を行うとともに、感染症等の情報収集を実施し、薬剤を準備して対応します。

移動の交通では、整備された自動車の利用と交通事故に注意します。活動の時間は、できるだけ日没前に終了するように計画します。

国内活動－2018 年度活動報告・2019 年度活動計画

ミーティング・総会

<会員総会>

2018 年度の通常総会を JICA 地球ひろばで開催 (3/25)

<運営委員会>

町田市民フォーラム他を利用して計 6 回開催

開催日：1/14 (第 162 回)、2/4 (第 163 回)、5/20 (第 164 回)、7/29 (第 165 回)、
9/23 (第 166 回)、11/23 (第 167 回)

日本人スタッフ・ボランティアの派遣状況

<2018 年度 派遣実施>

坂場光雄 (6 月 1 日～8 月 1 日)

榎本肇 (7 月 27 日～10 月 10 日)

<2019 年度 派遣予定>

スタッフ A (5 月頃～7 月頃)

スタッフ B (8 月頃～10 月頃)

スタッフ C (2020 年 1 月頃～2 月頃)

(10 ページ表 4 「2019 年度のスタッフ派遣予定」参照)

* マリ派遣に問題ないと判断された場合のみ派遣。

広報

<現地活動報告会>

帰国報告会 (JICA 地球ひろば) (榎本) (3/25)

帰国報告会 (町田市民フォーラム) (坂場) (9/23)

<機関誌「サヘル」他>

第 102 号 (7/3 発行) / ファナ特集号 (8/15 発行) / 第 103 号 (12/20 発行)

<掲載記事>

- ・農林中央金庫広報誌『ぐりーん&ライフ』2018 年春号掲載
- ・一般財団法人 地球・人間環境フォーラム『グローバルネット』2018 年 12 月号
シリーズ 食卓から見る世界 第 9 回
「サバンナの木の恵みとともに生きる ～西アフリカ・マリの食文化」(榎本肇)

学校との関係

<お話の出前・資料貸し出し他>

- ・横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」(坂場) (2/7)

イベント

<2018 年 参加イベント>

- ・みどりとふれあうフェスティバル 2018 (日比谷公園) (5/12,13)
- ・グローバルフェスタ 2018 (お台場・シンボルプロムナード) (9/29)*9/30 荒天中止
- ・みなこいワールドフェスタ 2018 (長野県駒ヶ根市) (10/28)

- ・ジャパン・バードフェスティバル 2018（千葉県我孫子市：千葉支部）（11/3,4）

<2019年 参加予定イベント（日程確定分のみ）>

- ・みどりとふれあうフェスティバル 2019（日比谷公園）（5/11,12）

2018年の新しい試みは、アフリカの里山再生の活動がより分かりやすく伝えられるように、アフリカンスクエアーのご協力を得て、グローバルフェスタで様々なアフリカの林産物（食材）を販売しました。例えば、バオバブリーフパウダー、バオバブ果実のパウダー、モリンガティーなどです。食材だけでなく、貴重なコールドプレスのシアバターも取り扱いました。今まではバオバブの説明をして「どんな味？」と聞かれても口頭で説明するしかなかったのですが、興味のある方にはご購入いただけるようになりました。食材に興味を持ってブースに立ち寄り、植林の話も聞いてくださる方やその逆もいて、活動紹介のツールとして大変有効でした。

毎年同じイベントに参加しているとイベントのカラーやお客さんの興味関心も随分かるようになりました。それぞれのイベントで喜ばれるような出展内容にできるよう、今後も工夫をするつもりです。

2018年に参加したイベントは2019年も参加予定です。イベントの開催日等詳細は、機関誌やホームページなどで告知します。ブースのお手伝いも大歓迎です。

機関誌サヘル

例年通り、年2回の発行を守ることができました。さらに、ファナ地域での10年間の活動をまとめた特集号も発行しました。スタッフ撮影の貴重な写真で現地の様子をお伝え出来たように思います。最近の紙面は、派遣スタッフによる現地報告+会員番号物語+イベント報告とマンネリ化の傾向にあり、編集の力量不足を痛感しています。スタッフと会員とをつなぐ数少ない場ですので、一方的な情報提供にならないように工夫していきたいと思えます。

◆サヘル 102号 2018年7月5日発行

- ・みどりの土台を作り広げる 坂場光雄
- ・トラオレ現地報告 里山再生の実践始動！ 榎本肇
- ・定款変更のお知らせ / 総会の出欠ハガキ Q&A
- ・会員番号物語：東京クラシッククラブ馬主クラブで取り組んでいること 三成拓也

◆機関誌サヘル ファナ特集号 2018年8月15日発行

◆サヘル 103号 2018年12月20日発行

- ・砂漠の気象 その激しさと秘めたるエネルギー 小島通雅
- ・里山再生実践のその先 榎本肇
- ・定例活動の10年を振り返る 坂場光雄
- ・会員番号物語：ティナイシャ村とデスマッチミーティングの思い出 高津佳史

牛乳パック回収

学校からの牛乳パックの回収活動も続けています。今年も浦島丘中学校で実施しました。生徒会が主導して全校生や地域の方々に呼び掛けて収集したものです。パック回収料は昨年の90キロから大幅増でした。回収した牛乳パックは古紙業者の（株）山田洋治商店に買い取ってもらいました。また再生トイレットペーパーの購入をしてくださった方もいます。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

・浦島丘中学校（神奈川県横浜市） 2月1日回収：390キロ（5,460円）
（アルミ缶回収分、10,098円の寄付も頂きました。）

ホームページ・ブログ・Facebook

現在、ホームページ・ブログ・Facebook と、三通りの方法で活動の報告やイベント告知をしています。それぞれに異なる記事もたくさんあるので、是非ご覧下さい。

安全確保の観点から日本人スタッフ派遣中に詳細な活動内容を掲載できませんが、派遣スタッフの帰国後にブログで写真と活動内容を掲載しています。毎日どんなことをしているのかマリの様子や活動を知ることができます。

掲載ご希望の記事やイベント告知などありましたら、事務局までご連絡ください。

サヘル定例活動とサヘルキャンプ

<2018年のサヘル定例活動報告>

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的としています。現場を見て歩くことにより、現在ばかりでなく、過去の歴史・文化の積み重ねなどを学んでいます。

2018年は天気に恵まれましたが、猛暑のため参加者の健康を考え、コースの一部を省略することもありました。ふだんはあまり足を運ばない都内などを巡り、会員交流、学習などが出来たと思います。回数は10回、第3土曜日に実施しました。定例活動の様子は、一部をスタッフブログで画像付きで紹介しております。

2018年サヘル定例の場所

1/20 下谷山の手七福神と近隣社寺、2/17 東海道川崎宿と川崎大師、4/21 昭島昭和公園と都農林総合研究センター、5/19 太田道灌の稲付城跡と古民家(赤羽自然観察公園)、6/16 慶応大学と周辺の社寺を巡る、7/21 東大和公園と郷土博物館、社寺を巡る、9/15 曳舟川親水公園とふれあい動物公園、10/2 競馬博物館と東郷寺、11/17 南千住荒川ふるさと館と水再生センター、12/15 明治寺百観音と江古田の森、哲学堂公園と花咲公園

<2018年のサヘルキャンプ>

8月18日に多摩センター～町田の里山交流館で実施しました。多摩ニュータウンの中心である多摩センターは、多摩丘陵の里山を大改変して、町が作られました。2km南にある町田側は、かつての里山が残っている場所です。7人の参加がありました。

天候は晴れ。多摩センターからバスで移動し、都天然記念物の平久保のシイを見学、一本杉公園から町田里山交流館まで歩き、昼食。そこで森林の専門家である高木さんの里山の解説を聞きました。午後は雑木林に囲まれた小野路城址まで散策しました。



平久保のスダジイ



町田里山交流館



小野路城址

この辺りの里山は、一部がNPO団体で管理されていますが、手が回らない部分はササに覆われ、竹林も放置されていました。

暑い日中でしたが、日陰をたどり、少しだけ里山を体験ができました。里山のお話もよかったとの感想がありました。

<2019年のサヘル定例活動>

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的として行っています。緑を中心とした地域への訪問で、楽しみながら、学んでいきたいと思えます。

期日は毎月第3土曜日中心に開催しますが、変更になることもありますので、確認してご参加ください。参加費はありませんが、別途施設の入場料金などがかかります。楽に歩けるような身支度、飲用水、昼食持参をして、ご参加ください。

2019年度定例活動計画

期日	場所	集合場所	備考
2019年 1/19(土)	多摩川七福神と多摩川緑地	JR南武線「平間」駅改札 10:30	多摩川に近い七福神と河川沿いの緑地を歩きます。
2/16(土)	多摩丘陵の里山をたどる	小田急線「百合ヶ丘」駅改札 10:30	多摩丘陵を縦断して、里山のようすを観察します。
3/16(土)	柏の宮公園と神田川遊歩道	京王井の頭線「高井戸」駅改札 10:30	神田川沿いの緑地を巡ります
4/20(土)	根川緑道と立川公園を歩く	JR中央線「立川」駅南口改札 10:30	立川崖線の緑地と小水路沿いを歩きます。
5/18(土)	明治薬科大の薬草園と金山調整池	西武池袋線「秋津」駅改札 10:30	大学の薬草園と柳瀬川の調整池を訪ねます。
6/15(土)	鳥越神社と世界のカバン博物館	JR総武線「浅草橋」駅改札 10:30	浅草南側の古い社寺と博物館を見に行きます。
7/20(土)	肥後細川庭園と雑司ヶ谷	JR中央線「飯田橋」駅東口改札 10:30	神田川沿いの庭園と歴史ある社寺などを巡ります。
9/21(土)	古い水運水路と地下鉄博物館	JR京葉線「葛西臨海公園」駅改札 10:30	古い河川を利用した公園緑地を歩きます。
10/19(土)	目黒天空庭園と西郷山	東急田園都市線「池尻大橋」駅改札 10:30	人工地盤上の庭園と西郷邸跡の公園
11/16(土)	サヘルキャンプ	相鉄線「瀬谷」駅改札 10:00	手作業、食事づくりで交流学習します。
12/21(土)	小宮公園の雑木林を歩く	JR中央線「八王子」駅改札 10:30	八王子の丘陵で里山を学びます
2020年 1/18(土)	港七福神	都営大江戸線「赤羽橋」駅改札 10:30	麻布や六本木にある七福神の社寺を巡ります
2/15(土)	多摩の桜ヶ丘公園と古神社	京王相模原線「若葉台」駅改札 10:30	多摩丘陵の里山公園を歩きます
3/14(土)	平林寺と歴史民俗資料館	JR武蔵野線「新座」駅改札 10:30	早春の平林寺と地域の歴史民俗を学びます。

<2019年度のサヘルキャンプ>

会員交流、自然観察、技術研修等を目的として実施しています。海外協力やボランティア、緑づくりの活動に関心のある人との交流などが出来ればよいと思えます。マリ料理と竹林伐採体験、たき火、竹細工で楽しみ学びます。

期日：2019年11月16日（土）場所：瀬谷作業場など

集合：相鉄線「瀬谷」駅改札10：00

持ち物：長袖シャツ、帽子、飲用水、手袋、タオルなど

費用：バス代（400円）＋参加費（中学生以上1,500円）

※参加費には昼食代（マリ料理）や保険料を含みます（未就学児無料、小学生500円）。

*定例活動、サヘルキャンプへ参加希望の方は、変更になることもありますので、事前にサヘルの森までご連絡ください。定例活動の緊急連絡は電話でお願いします。

TEL：042-721-1601 FAX：042-721-1704 メール：sahel-no-mori@jca.apc.org

静岡支部（戸本喜文）

5月26日（水）に焼津市民文化会館で活動報告会（サヘルキャラバン in 焼津）を藤枝・岡部地区で里山活動している森とチルドレンさん達と合同で行いました。サヘルの森からはスタッフとして4名が参加。遠方から参加して下さった皆様どうもありがとうございました。

参加者は私たちと森とチルドレン、その他一般参加者で13人くらいでした。少々少なかったですが、内容は日本の里山とアフリカの里山の話等が聞けて中々面白かったです。日本の森林は戦後住宅建材の確保目的で杉やヒノキが大量に植林されました。それまでは人の手があまり必要ない広葉樹が中心でしたが、人が面倒をみなげなければいけない木に転換してしまったのは皆さんご存知のことと思います。その後輸入材に押されて国内の森林が使われなくなり、手入れもされなくなった森林が増加しています。

静岡でもその傾向は顕著で森とチルドレンの八木さんの話によれば藤枝地区の大半が人工林との報告でした。八木さんは仕事柄（木工品の工房を経営）日常的に輸入木材を扱っているそうですが、加工したときに体調不良がよく起こったそうです。その原因が輸入木材の消毒等で薬剤処理したから木材からしみ出た物質によるシック症候群みたいなものではないかと思い、安全な地元産の木材を何とか利用できないかというのが里山活動は始めたキッカケだそうです。

サヘルの森はアフリカ・マリ共和国の過酷な環境下での植林や里山活動について報告しました。一般参加の方からも活発な質疑応答がありました。ワークショップでもバオバブの苗木作りは中々の人気でした。

他団体と共同で活動報告というのは今まであまりなかったと思いますが、他の団体の活動内容や思い入れが多少は理解でき面白かったと思います。また今後も機会があれば静岡方面での活動報告会も再度挑戦してみたいです。

千葉支部（高津佳史）

我孫子市の手賀沼湖畔で開催された「ジャパン・バードフェスティバル2018」に出展しました。鳥好きが集まる日本で唯一のイベントですが、当会設立当初にお世話になった方など懐かしい出会いに恵まれました。

また、ファナ地域と同じように千葉の里山でも間伐や草刈りなどの管理作業を行っています。袖ヶ浦市の真光寺では上田さんが中心となって谷津田の再生を進めています。会員の三成さんがお勤めの東京クラシッククラブ（千葉市）でも上田さんが活躍中で、山仕事に加えてオシドリの巣箱架けを行っています。実は千葉市にはオシドリが生息しており、狙い通りに架けた巣箱で繁殖しました。

運営委員・監事名簿（2019～2020年）

.....

代 表	坂場光雄	自 営
-----	------	-----

.....

運 営 委 員	上 田 隆	団 体 職 員
	榎 本 肇	自 営
	工 藤 義 治	団 体 職 員
	久 保 隆 一 郎	会 社 役 員（神 奈 川 支 部）
	高 津 佳 史	自 営（非 常 勤 事 務 局 長、千 葉 支 部）
	坂 場 光 雄	自 営
	島 岡 て る み	主 婦（関 西 支 部）

	戸 本 喜 文	会 社 員（静 岡 支 部）
--	---------	----------------

.....

監 事	大 沼 こ ず ゑ	主 婦
	宮 代 裕 子	自 営

.....

任期は2019年4月～2021年4月の2年間です。



特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3

アーベイン平本 403

TEL: 042-721-1601 FAX: 042-721-1704

(不在の時は留守番電話に伝言をお願いします)

HP: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>

E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org